



## 後記

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-07-27 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://hokkyodai.repo.nii.ac.jp/records/8164">https://hokkyodai.repo.nii.ac.jp/records/8164</a>

後 記

A Postscript by the Editor

本情緒障害教育研究紀要も 21 号となりました。本 21 号より、発行を北海道教育大学情緒障害教育学会と北海道教育大学旭川校障害児教育研究室と共同の発行ということにいたします。

北海道教育大学情緒障害教育学会は、1995 年 2 月に第 1 回の研究大会を、特殊教育特別専攻科の研究発表会、北海道教育大学情緒障害教育研究会と合同で開催して以来、少しずつ発展し、本 2002 年 2 月の大会で 8 回目を数えます。情緒課程修了生を中心に結成した学会でしたが、年を追うごとに、いろいろな学校の先生方、保護者の方、福祉施設の方、大学の先生方、研究者と多様な方々が参加して下さり、情緒障害教育研究紀要に投稿して下さるようになりました。そこで本紀要を学会の発表論文集としても活用することにしました次第です。

本紀要 21 号は、前半は TEACCH プログラムにかかわる 16 編の実践研究です。真鍋氏ら、おしまコロニーの「自閉症センター“あおいそら”」の実践は、特筆に値するもので、函館地区においてこれまでなされた幼児施設、学校教育、福祉施設における TEACCH 実践を総合化していく機能をもつものです。まさに、函館地区が生涯にわたる地域ケアのモデル地区となりました。旭川地区は、旭川肢体不自由児総合療育センターの短期母子入院による母子訓練が非常に大きな成果をあげています。また、これまで取り組まれた幼児期、学校教育期の実践も着実に成果をあげております。

続く 4 編は、不登校や心の傷にかかわる論文です。もっとも現代的で、すべての学校の先生が出会う問題で、非常に多くの示唆を与えてくれます。次の 2 編は、特殊学級における交流教育と地域と連携する小学校経営に関するものです。先進国はインクルージョン理念のもとに特別ニーズ教育が進行中ですが、その実現には通常教育における交流や地域との連携など多くの改革が求められ、その実践の一步です。

続く 6 編が特殊教育諸学校にかかわる報告です。生徒さんご自身からの強烈なバリアーについての問いかけ、絵画的造形的世界の不思議、コミュニケーション、親との連携などの報告に加え、学校経営における学校評価・説明責任に応える取り組みが示されました。教師の公僕としての意識は非常に大切です。

次の 2 編は、英国のインクルージョンと日本の特殊教育の比較、もう一つ、文献紹介は、福祉サイドから見た学校教育への強い期待が示されています。

目の前の現実にも真摯に取り組みつつ、10 年、100 年、200 年の教育的展望をもちたいと思います。

最後になりましたが、特殊教育特別専攻科の教育研究活動に多大のご援助を賜りました、お子さん、保護者の方々、ご指導いただいた先生方、本 21 号に玉稿を賜りました方々に、衷心より厚く御礼申し上げます。また、1 月という最も忙しい時期に、編集作業の中心的役割を果たして下さった特殊教育特別専攻科 10 期生（情緒課程 21 期）の方々に厚く御礼申し上げます。

2002 年 1 月 24 日

古川 宇一(Uichi Furukawa)

編集委員

古川 宇一（代表）	内島 貞雄	大崎 功雄	末岡 一伯
木村健一郎	青山 真二	三浦 哲	佐藤 満雄

編集協力

特殊教育特別専攻科第 10 期（情緒課程 21 期）

渡辺 順彦（代表）	北 伸治	清水亜矢子	添田みちる
武田 明子	廣島 君恵	柳瀬 尚樹	山本 宏美

北海道教育大学旭川校障害児教育研究室

古川 宇一（主任）	内島 貞雄	大崎 功雄	末岡 一伯
-----------	-------	-------	-------